

### 3. 用水路にはどんな仕組みがあるの？

川で行われた大きな工事

川に近づけるふだんの暮らし

川に近づける農業

川に近づける漁業や工業

付録



道の下をくぐる「トンネル」。地下の水路を「暗渠（※1）」とか「カルバート（※2）」と呼ぶ。わきに積んであるのは岸を守る「ふとんかご」。

#### （1）トンネルや護岸

水路は、単純にみぞが続いているだけではありません。道路の下をくぐることもあれば、水門が付いているところもあります。

また、岸がくずれてしまわないような工夫（護岸）も見られます。土をほっただけの水路もあれば、コンクリートのみぞになっているところもあります。

それぞれがどんな仕組みなのか、また何のためなのかを考えて、調べてみましょう。

（→ 地面をくぐる水路 p62、p93）

**注意!!**…用水路の岸は急になっている上、かなり深くなっています。近づきすぎないように。特に地下水路の中は、急に深くなっていたり、せまくなっていたりして、大変危険です。



小さな水門がある。何のためにあるのだろうか？



なぜ遠くから水を引くのだろう？ フタをしていないのは、何か意味があるのだろうか？



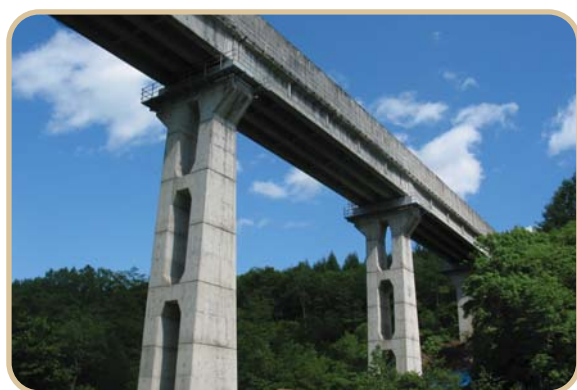
手前にある道をくぐるところ。

#### （2）水の立体交差

ようすいろ とちゅう

用水路の途中、別の水路があるところでは、水の通る橋があります。水路を使って水を遠くまで送る時、時々こうした水のための橋が使われます。（→ 水路の橋 p32、p50）

また、橋には水門がついています。どんな時に開けるのか、考えてみましょう。



発電所に水を送るための水路の橋。（→ p50）



別の水路にかかる用水路が流れる橋。ここの水門は何のためだろう？

※1 暗渠（あんきょ）：地下の水路のこと。地上で目に見える水路を明渠（めいきょ）という。

※2 カルバート：土を盛り上げたところや地面の下など土の中に、道路や水路などの空間をつくるために、設けられる構造物。

（参考：荒川上流河川事務所・基礎用語集のページ <http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/yogo/index.html>）